

町政を問う！

質問 石狩川上徳富築堤工事の早期着工を目指した取り組みを

町長 R3年度から測量業務本格再開、整備に向けた要望活動を継続する



小玉議員

質問

平成22年の住民説明会以降、工事が進まず丘陵堤工事が未だ整備されていない。各地で豪雨による河川の氾濫など災害が起きている中、早期の整備が必要となる。町では早期整備に向けた要望活動を実施しているようだが整備実現の見通しは。

答弁

町と河川事務所との連携により、工事を進める上での懸案事項が解消した。令和3年度から整備工事に関する測量設計業務が本格的に再開する予定。今後も引き続き、国土交通省、財務省、滝川河川事務所に整備実施の要望を行う。

再質問

昨年2月、経済文教常任委員会ですべて説明を済ませたが未だされていない状況。不安を抱えている住民への対応を町としてどのように考えるか。

答弁

昨年、滝川河川事務所に説明会実施を依頼し、承諾を受けていたが、工事中断の間に工事に関する基準が変更となり修正検討が必要となり、調整に時間を要したことに加えて、新型コロナウイルスの感染拡大も関係し、結果的に説明会ができない状況となった。しかし、測量設計業務再開により整備に向けた詳細が判明すると思われるので、令和3年度末までに住民説明会を開催するよう要望していく。

再々質問

災害時の避難行動等は、未整備地区区間の状況を考慮されたプランとなっているのか。

答弁

丘陵堤の整備がされると堤防の強度が増し、より安心できることとなるが、丘陵堤の整備に関わらず、迅速、適切な防災活動を実施する。また、令和2年度に、水害に備えた行動のタイムラインを策定。警戒情報、避難情報の発信を行い、住民の避難行動につなげていけるようにする。

質問 「かぜのび」を多くの方が訪れる本町の観光資源としては

教育長 美術館として魅力を向上させ、積極的にPRしていく



▲かぜのび

質問

開館10年を迎える「かぜのび」は、優れた芸術とふれあう場であるが、来場者は年間600人程度。多くの方が訪れ、「かぜのび」を活用した町の活性化をどのように考えるか。

答弁

10周年を契機に施設の充実と展示作品の充実、道内の彫刻施設等との連携を進め、「かぜのび」の魅力を向上させ、一人でも多くの方に足を運んでいただくよう努める。

再質問

町の各所(役場、ゆめりあ、スポーツセンター)に五十嵐威暢さんの作品を展示し、身

近に芸術に触れることができ

ることは素晴らしいと考えるが、町から離れた「かぜのび」に足を運ばせるには「行きたい」と思わせる魅力と工夫が必要であると思いがいかか。

答弁

彫刻と音楽を楽しむコンサートを通じて、多くの音楽家から「かぜのび」で演奏したいという声があり、「かぜのび」が持つ空間の魅力も広がりつつある。魅力あるイベントの開催に加えて、送迎の工夫、PRの強化を行っていく。

再々質問

アートの町づくりの事例では、地域の特性を生かした魅力ある美術館を売り込んでいる。吉野地区という山間の自然豊かで、廃校を利用したここにしかない魅力的な空間を演出し、文化施設だけでなく町の観光資源の目玉となるような取り組みをしてはいいか。

答弁

観光的な要素として付加価値を高める考えを持ち、町観光協会と連携し、PRの強化を図っていく。

一般質問 ずばり

質問 「生涯学習」としての「高齢者生きがい活動」の進め方は

教育長 保健福祉課の取り組みを基盤に事業展開を図り支援していく



西内議員

質問

保健福祉課所管の「ふるさと学園大学」「ゆめりあ部会」「福祉バス」等の事業が、令和3年度から教育委員会に移管され「生涯学習」「社会教育活動」に位置付けられた。どのよつに「高齢者の生きがい活動の充実」を図り、支援し、推進するのか。

答弁

「ふるさと学園大学」「ゆめりあ部会」「シニアいきいきクラブ」、それらに伴う送迎バス運行業務管理など「高齢者生きがい対策事業」を担うこととなったが、これまで、「ふるさと学園大学」や「ゆめりあ部会」と児童との「ふれあい体験教室」など、福祉と教育が連携して進めてきた事業もある。今後は、保健福祉課での取り組みをベースに、その上で「生涯学習」「社会教育活動」として執り進めていく。社会教育主事等の専

門的知見や教育委員会のノウハウを生かし特色ある事業展開を図っていききたい。

「生涯学習」は自己の人格を磨きながら豊かな人生を送れるよう生涯にわたりあらゆる機会・場所で学べるもので、生きがいにつながる。全ての

町民が心の豊かさや生きがいのある人生を築けるよう、学習機会を提供し学習活動や生きがい活動を支援していく。

再質問

教育委員会ならではの事業拡充は考えているか。

答弁

「ふるさと学園大学」に外国語指導助手の講座を設ける。また、総合学習やキャリア教育の中で、学校から求めがあれば「ゆめりあ部会」の協力をいただきたいとも考えており、各団体と相談をしながら充実を図りたい。

再々質問

会員減少、指導者や後継者不足問題を抱える部会がある。人材育成にどう取り組むか。

答弁

社会教育主事を中心に各部会と話し合い、進めていく。

質問 公立学校教員の「働き方改革」の今後については

教育長 「1年単位の変形労働時間制」を導入していく



進藤議員

質問

公立学校教員の「働き方改革」については、教育行政執行方針でも述べられているが、「校務支援システムの有効活用」とはどのようなものか、また、働き方改革推進委員のメンバーは管理職で構成とあるが、現場の教員の声をどのよつにすくい上げるのか。

答弁

「校務支援システム」とは、掲示板やメール機能のほか、指導要録、通信簿、健康記録管理もでき、児童生徒へのきめ細やかな指導を行うことが可能となる。また、出勤管理についてもICカードによる管理となり、正確な在校時間の把握とデータにより、長時間労働の原因の検証に役立っている。

職員の見解をまとめ会議に臨んでいる。今後は、教職員に個別のアンケート調査の実施も予定しており、教職員の意識や考え方を聞き取りながら、勤務状況の改善につなげていく。

再質問

さらに「校務支援システムの有効活用」をするには専門家の指導が必要ではないか。

答弁

専門家の指導については、令和3年度の予算に計上する。

再々質問

本町として「1年単位の変形労働時間制」を導入する考えはあるのか。あるとすればスケジュールを。

答弁

4月から実施できる体制を取る。3月26日の定例教育委員会、新十津川町学校管理規則等の体制の整備を行う。

小中学校から働き方改革推進委員会に管理職が出席しているが、職員会議等により教